

Dr. Guts 北垣の体当たり臨床実践塾—あなたも今日だけ研修医—
「痛み」と「救急」を斬る！

日時：平成23年4月16日（土）16：30～19：30

講師：北垣 毅 花見川中央クリニック院長 場所：パールホテル茅場町

MHS医学臨床セミナーを4月16日、東京都中央区のパールホテルで北垣毅・花見川中央クリニック院長を講師に迎えて Dr. Guts 北垣の体当たり臨床実践塾—あなたも今日だけ研修医—の4回シリーズ第1回目、『「痛み」と「救急」を斬る 頭痛から足の痛みまで一刀両断』をテーマに開催しました。

北垣先生は、1995年高知医科大学を卒業後、米国フロリダ州の救命救急士学校に入学、2年間救命活動に従事し、インディアナ州ユニオン病院家庭医医療学センターの研修医として3年間プライマリケア全般を習得。帰国後は亀田総合病院、東川口病院で勤務、2007年に花見川中央クリニックの院長に就任し、東京女子医科大学八千代医療センター講師、高知医科大学非常勤講師、君津中央病院臨床研修指導医なども務めています。

**診療前後は、看護師の役割が大きい・・・
「サンドイッチ診療」**

今回のセミナーでは、頭痛、胸痛、腹痛、腰痛、喉頭痛、四肢痛・関節痛を取り上げて救急医療での間違いのない対応を伝えていただきました。

各疾患のマネジメントの講義に入る前に、クリニックにおける日常診療での対応をあげています。患者の多いクリニックでは医師が患者を診察する時間が短くなるため、診察前に看護師が待合での詳細な問診、診察前の検査を実施し、出来るかぎりのフィジカルアセスメントをおこなったのちに医師が診察をすることによって診察の時間が軽減できます。また、診察後も看護師が診療後のフォローや電話指示を行います。この診察を『サンドイッチ診察』と呼び、そのための看護師教育も日々実施しています。

クリニックでの診療では病院に比べ、発症から間もない患者が多い、典型的な症状が整っていない、検査や診断機器が限られている、多くの軽症者の中にまれに重症者がいる、ベッドがなく経過観察がしにくいなどの不利な点を指摘し、その上でトリアージに対応しているとのことでした。

**見逃してはいけないものを絞れ！「痛み」
救急のキモ！！**



各地よりお越しの参加者の前で講演される北垣先生

また、救急では最初の5分が最も大切となり、情報で一番大切なものは「バイタルに始まりバイタルに終わる」といっても過言ではありません。

診断する際の心構えとして、「思い込み」と「憤り」が誤診を招きかねないので注意が必要です。

各痛みの疾患における講義では、救急の「キモ」やピットフォールを実際の症例をもとに語っていただきました。紹介された事例は6歳の小児から80歳代のお年寄りまでさまざまに疾患も皮膚科、小児科、婦人科、整形外科まで幅広く、これぞ家庭医の醍醐味！といったところではないでしょうか。

第2回目は9月3日（土）、「皮膚科・外傷における手技・処置実践編」のテーマで開催します。